



今後に向けた取り組み



1. 取り組み（事業）の体系

本町の公共交通は、「めざすべき姿」の実現に向けた「5つの方向性」にしたがい取り組んでいます。今後の取り組み（事業）の体系は以下の通りであり、計画期間において検討・実施を順次進めていきます。

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
（バス・タクシー）



取り組み
1-1

路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行



取り組み
1-2

日常的な利用客（固定客）の確保



取り組み
1-3

効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施

方向性 2

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。



取り組み
2-1

町民の外出手段の効率的な確保



取り組み
2-2

町民の外出の利便性向上のための運用・運用方法の工夫



取り組み
2-3

学生等の利便性向上のための方策



取り組み
2-4

福祉と連携した外出等の支援

方向性 3

使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)



取り組み
3-1

町の公共交通全体のわかりやすさの充実



取り組み
3-2

乗り場での案内（現地でのわかりやすさ）の充実



取り組み
3-3

主要な乗り場での待合環境の充実



取り組み
3-4

人にも地球にもやさしい利用環境の充実

方向性 4

クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通
を考えるように、意識の変容を促していきます。



取り組み
4-1

町民へのPR活動



取り組み
4-2

免許返納を考える人へのサポート



取り組み
4-3

町民が乗る機会・考える機会の提供（モビリティ・マネジメントの取り組み）



取り組み
4-4

地域主体で考える機会のサポート

方向性 5

まちの賑わいに貢献する方策を模索します。



取り組み
5-1

観光等に便利な運行方法の工夫・試行



取り組み
5-2

観光と公共交通が連携した企画等



取り組み
5-3

その他、来訪者の利便性の充実

2. 各取り組み（事業）の内容

本計画の5つの方向性に基づいた取り組み（事業）の内容を以下に示します。

各取り組みは、計画期間（5 年間）に、具体的な実施方法について関係者、運行事業者、町民等との意見交換や調整を行いながら検討し、必要に応じて実証運行・試行等をふまえた上で本格的な導入等を行います。

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
（バス・タクシー）



取り組み
1-1

路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行

利用客が少なく、今後の人口減少も見込まれる中、本町の公共交通は、将来にわたり、町民の日々の暮らしやまちづくりを支えていきます。そのため、種々の利用促進を図りながら町内外への外出を担う路線バス・高速バスを持続的に運行します。

取り組みの内容

- 本町を運行する民間事業者の路線バス、高速バスについて、地域の実情に応じた運行方法の部分的な調整や見直しを定期的に行うとともに、小湊鐵道、九十九里鐵道のついては国・県の補助「地域公共交通確保維持事業」を活用し、ちばフラワーバスについては本町が山武市と連携した補助（現在の九十九里町路線バス海岸線運行事業、またはそれに代わる補助など）を行いながら、持続的に運行し、町内の各地区と隣接市町、駅などつなぐ外出手段としての役割を担っていきます。

また、これまでも公共交通に関する隣接市との調整等を行ってきており、今後も、路線バスの持続的な運行や他のサービスも含めた意見交換を定期的に行い連携して取り組んでいきます。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	●	○ (国、県、隣接市)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 1-2

日常的な利用客（固定客）の確保

利用客が少なく厳しい運営状況にある中、本町のバス等の運行を今後も持続できるようにするため、運行事業者、関係者が連携し、日常的な利用客（固定客）を確保するための取り組みを行います。

取り組みの内容

- 路線バス、高速バスの定期券、回数券の販売を促進し、日常的な利用客を確保するため、バス事業者が作成するチラシ・ポスター等を、町とバス事業者が連携し、町関連施設、バス停のある店舗等に掲示するよう依頼します。
- 町とバス事業者が連携し、町内の中学校、高校等の行事（進路説明会、オープンキャンパスなど）に出向いて、生徒や保護者に対しバスの通学利用をPRします。
- 町内に住む学生の通学利用を促すため、バスの定期券、回数券の購入への町による助成などの制度の可能性について検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (施設・商業、学校の 関連部門と連携)	●	○ (町関連施設、店舗等関係者、 学校関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 1-3

効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施

将来にわたって本町の公共交通を効率的・安定的に運用できるようにするため、町と運行事業者が連携しながら、乗務員の確保などの運営上の喫緊の問題に対処する方策や、運行事業者の負担を軽減する方策を検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 乗務員不足・高齢化をはじめとする運営上の問題を共有するため、町が呼びかけを行い、複数のバス・タクシーの運行事業者による意見交換の場を定期的に設けます。
- 乗務員の確保については、各事業者が継続的に取り組みを行うとともに、町の広報、ホームページ等の媒体、U・I・Jターンのキャンペーンなどを活用した求人活動など、町が可能

な支援の仕組みを検討します。

- 運行の効率化（バス乗務員の負担軽減）を目的として、各運行事業者が、ダイヤなど運行方法を定期的に見直します。

また、バス乗務員の運転時間を効率化（連続運転を短縮）できるような場所での「共同の休憩場所」の確保について、町が可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (UIJ ターン、施設等の 関連部門と連携)	●	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 2

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。



取り組み
2-1

町民の外出手段の効率的な確保

公共交通を使う町民の町内や隣接市の店舗、病院などへの外出の手段を効率的に確保するため、タクシーなどの運行・運用方法や、新たな外出サービスや仕組みなどを検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 現在、本町で行っている公共交通の実証実験（「九十九里町公共交通実証実験助成事業」によるタクシー利用助成）を継続し、有効性を検証した上で、事業の継続や、他の地区への適用の可能性について検討します。
- タクシーを活用して町民の外出手段を効率的に確保するため、町が行う「タクシー利用助成」などにおいて、「相乗り（複数名での乗車）」の利用を促すような仕組み（割引など）を検討します。
- バスが運行していない町内の地区を対象として、行先、運行ルート、時間帯を定めた「デマンド型の乗合タクシー」（個別送迎ではない乗合タクシー）などについて検討し、状況に応じて実証運行を行います。
- 地区の住民が中心となって運営する、地域の実情に応じたお出かけサービス（タクシーの相乗り、住民ボランティアによる送迎など）について、タクシー事業者等との意見交換も行いながら、検討を行います。主体的に取り組もうとする地区が、サービスの試行や実証運行などを行う際に、町がサポートする仕組みを検討します。（＊地区住民が中心となって「考える」取り組みへのサポートについては後述）

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○ (意見交換) (実証運行等の協力)		●

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 2-2

町民の外出の利便性向上のための運用・運用方法の工夫

町民が、町内外へ、公共交通を使って便利に出かけられるようにするため、町内の公共交通の運行方法の工夫を行うとともに、店舗などの施設と連携した取り組みを行います。また、バス、タクシー、鉄道を乗り継いで、町外との間を便利に行き来できるようにするため、複数の公共交通が連携した運行・運用方法を検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 本町のバスと鉄道との乗り継いだ外出の利便性を充実するため、ダイヤ改正などの情報を随時提供していただくよう、町から鉄道事業者へ打診し、その情報をもとにバス事業者が、可能な限り乗り継ぎが便利になるよう定期的にダイヤを調整します。
- タクシーとバスを利用した外出を便利にするため、例えば、町内でのタクシーとバスの乗り継ぎ利用、行きはバスで帰りはタクシーといった利用を促す仕組み（割引・特典など）について、町が呼びかけを行いバス、タクシー事業者と意見交換しながら、可能性を検討します。
- 公共交通を使った外出を促すため、町が店舗関係者や運行事業者への打診を行い意見交換しながら、例えば、バス、タクシーを使って買い物をした人への割引・特典などの仕組みの可能性について検討し、有望なアイデアがある場合には試行などを行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (商業関連部門と連携)	●	○ (店舗・関連団体)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 2-3

学生等の利便性向上のための方策

町内の高校生の通学や、休日・夏休みなどの外出の利便性を向上し、活発な外出を促すため、公共交通の運行方法やその他の方策について、学校関係者とともに検討・調整を行います。

取り組みの内容

- バス通学をする生徒がいる九十九里高校などで、テスト期間の短縮時間割などの際の下校や休日・夏休みの部活動などでバスの便が合わない場合に、例えば、バスの特別ダイヤの

調整や、相乗りや貸切りのタクシーなどにより、ちょうどよい時間帯を補完する方策の可能性について、町と学校関係者、運行事業者が調整しながら検討します。

- 高校生などのニーズを定期的に把握しながら、週末・夏休みなどに町外から本町へ遊びに来る際にちょうどよい時間帯の外出手段（例えば、行きはバス、帰りは相乗りのタクシーなど）の可能性について検討します。
- 高校生からの要望が多い、バスの「キャッシュレス化」（ICカード、モバイル回数券など）について、バス事業者が継続的に検討するとともに、町も支援の方策を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校関連部門と連携)	● (試行等への協力)	○ (学校)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
2-4

福祉と連携した外出等の支援

高齢化が進むことで、乗合の公共交通の利用や、外出自体が難しい町民が増える可能性があります。本町全体としては、公共交通と福祉などの関係者が連携や役割分担を行いながら、なるべく公共交通を利用して出かけていただけるようにする方策とあわせて、乗合の公共交通以外の送迎などで出かけていただく方策に取り組み、元気なお出かけを応援していきます。

取り組みの内容

- 一人で外出することや乗合の公共交通の利用が難しい高齢者や障がいのある方などに対し、町の福祉部門の取り組みによる支援の方策（例えば、ワゴン車などでの買い物ツアー、福祉のボランティアによる個別送迎のほか、買い物代行サービスなど）について、タクシー事業者等との意見交換も行いながら検討します。
- 障がいのある方への支援として、町の福祉部門による「福祉タクシー助成事業」（タクシー利用に対する助成）を継続します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門)	○ (意見交換) (仕組みへの協力)	● (福祉関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性3

使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)



取り組み 3-1

町の公共交通全体のわかりやすさの充実

本町の公共交通について、バスの運行状況をよく知らない人が少なくないことや、利用方法をわかりやすくすることを望む声があることから、出発前に得られる町の公共交通全体の情報を充実し、利用に対する抵抗感の軽減に取り組みます。

取り組みの内容

- 本町を運行する複数の路線バス、高速バス、JR 東金線、外房線、総武本線、タクシーの情報を一つにまとめ、どこに行けば、どこ行きのバスに乗れるかを高齢者などにもわかりやすく簡潔に示す町全体の「バスマップ（チラシなど）」を、町が各バス事業者の情報を得ながら作成します。
- バスを利用する習慣がなく路線図や時刻表を調べることに抵抗感のある高齢者などに対し、町が福祉関係者と連携し、各地区に出向いてバスなどの使い方に関する「出張説明会」などを行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門と連携)	● (情報の提供など)	○ (自治会、福祉関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 3-2

乗り場での案内（現地でのわかりやすさ）の充実

本町への来訪者や、公共交通の利用に不慣れな町民などが、外出先の現地で迷うことなく利用できるようにするため、種々の工夫を行い乗り場での案内を充実します。

取り組みの内容

- 町が運行事業者と連携し、主なバス停や、観光スポットの施設内の掲示などの方法で、何

に乗ればどこに行けるかといった簡易で総合的な案内を行います。また、町の観光案内所や観光施設と連携し、スタッフによるバス、タクシー等の案内のフォローができるようにします。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	○ (情報の提供、相互の案内)	○ (観光関連団体、 施設関係者等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
3-3

主要な乗り場での待合環境の充実

町内の主な施設（店舗、病院、観光施設など）のバス停において、待ち時間が長い場合でも利用客が快適に過ごせるようにするため、施設内の待合環境や、バス案内情報の充実に取り組めます。

取り組みの内容

- 利用客が、なるべく施設内で待てるようにするため、主な店舗、病院、観光施設などの建物内の待合スペースにバスの時刻表等の案内情報を掲示すること、また、敷地内にタクシーが乗り入れ待機できるようにすることについて、町が施設関係者への打診を行います。
- バスが到着する直前まで建物の中で待てるようにするため、主な店舗、病院、観光施設などの待合スペースに、紙媒体による掲示のほか、簡易なタブレット端末やテレビ画面などを設置して、バスの現在位置がわかる「リアルタイム位置情報」を表示するなど、利用客層に応じた情報提供の方策について、町とバス事業者が可能性を検討します。
- 本町のバスの拠点となるような乗り場付近（片貝駅・西の下付近、サンライズ九十九里、海の駅九十九里など）に、既存施設や空きスペースなどを活用して、バス待合スペースと案内情報スペースをかねた、簡易な施設を設けること（小さな拠点づくり）について、町と関係者が可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (施設・観光の 関連部門と連携)	● (運行情報の提供)	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 3-4

人にも地球にもやさしい利用環境の充実

高齢化が進むことをふまえ、本町の公共交通全体として、人にも地球にもやさしい利用環境を創出するため、車両、乗り場のユニバーサルデザインや、低エネルギー化に取り組んでいます。

取り組みの内容

- 車両の乗り降りが利用の抵抗とならないよう、車両の更新時のノンステップバス、低エネルギー車両の導入を検討するとともに、乗り場などのユニバーサルデザインについて継続的に取り組んでいます。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (地球環境・施設の 関連部門と連携)	●		

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 4

クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通を考えるように、意識の変容を促していきます。



取り組み 4-1

町民へのPR活動

本町では、公共交通を使える場合にも利用しない町民が大半であるのが現状です。そのため、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を使うことについて、PR活動を積極的に行い町民に呼びかけていきます。

取り組みの内容

- 町の広報媒体、イベントでの広報活動などにより、公共交通の大切さと厳しい運営の現状を町民に知っていただき、使える時に少しずつでも利用するよう継続的に呼びかけます。
- バスの車内、町の主要な施設などに児童の絵を展示する「お絵かき展」など、家族等と一緒に公共交通に親しめる催し等を企画します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (イベント、児童福祉の 関連部門と連携)	○ (PR等の連携、企画への協力)	○ (幼稚園等)	● (取り組みの理解、 積極的な参加、)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 4-2

免許返納を考える人へのサポート

高齢者がクルマ中心の外出スタイルを見直し、安心して運転免許の返納を検討できるよう、公共交通を利用する機会の提供による動機付けを行っていきます。

取り組みの内容

- 運転免許証を返納した町民へのサポートとして、本町のすべてのバス、タクシー事業者が取り組む「安全運転免許自主返納支援措置」による乗車運賃の割引を継続するとともに、警察と町が協力し、積極的に町民にPRします。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○ (PR活動)	●	○ (警察)	● (積極的な利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
4-3

町民が乗る機会・考える機会の提供（モビリティ・マネジメントの取り組み）

本町では、クルマ中心の外出スタイルとなっている町民が大半であり、公共交通をほとんど利用しない人が多いのが現状です。将来まで公共交通を持続するため、モビリティ・マネジメントの取り組みとして、「乗る機会」、「考える機会」を提供することにより、公共交通の大切さと厳しい運営状況の理解を促し、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を利用する意識の醸成を図っていきます。

*「モビリティ・マネジメント」：コミュニケーション施策を中心として、“知る機会”、“考える機会”、“体験する機会”を継続的に提供することにより、クルマ利用だけを考える状態から、公共交通や徒歩・自転車などクルマ以外の利用を考える状態へと、少しずつ自発的に、意識や行動が変わり、定着するように促す取り組み。

取り組みの内容

- クルマを運転しない年齢のうちに公共交通への意識を育むため、町が学校や地域のクラブなどに呼びかけ、バス事業者と連携し、実際のバス車両を用いた「小学生等の乗り方教室」を行います。
- 町とバス事業者が協力し、学校、地域などに対し、行事、クラブ活動、地域の催しなどで出かける際に路線バス、高速バスを利用していただくようPRを行います。
- これまでバスを利用してこなかった人に、乗車する機会を提供するため、町とバス事業者が連携し、高齢者などの乗車体験会を企画します。
- 実施日または期間を限定し、バス等に無料で乗車できる「バス無料デー」の企画または「お試し乗車券」の進呈などについて検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校・地域・福祉 関連部門と連携)	● (企画への参加、協力)	● (学校・クラブ、 自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



高齢化が進む地区等で、これからの外出手段について地区の住民が中心となり主体的に「考える機会」をサポートすることによって、地区住民全体としての公共交通に対する意識の醸成を図っていきます。

取り組みの内容

- 住民が主体的に取り組もうとする地区を対象として、住民の要望を聞く場としてではなく、地域のこれからの外出手段や公共交通について住民が主体的に考える機会とすることを目的として、町と自治会などが連携し、各地区での「意見交換会」を定期的を開催します。また、住民が中心となったお出かけサービス（例えば、タクシーの相乗りや助け合いによる送迎サービスなど）の取り組みに対し、検討段階の会合にアドバイザー（コンサルタントなど）を派遣するなど、「考える機会」やその後の試験運行を町がサポートする仕組みについて検討します。状況によってはタクシー事業者等との調整等をふまえた上で、モデル的な地区で先行的に試行します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (サポートの仕組みの検討)	○ (調整等)	● (自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 5 まちの賑わいに貢献する方策を模索します。



取り組み 5-1

観光等に便利な運行方法の工夫・試行

九十九里浜をはじめ、本町には複数の観光やレジャーのスポットがあります。なるべく多くの人に本町へ来訪していただけるようにするための路線バスの運行方法等について可能性を検討し、状況に応じて実証運行などを行いながら取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 今年度の実証運行を行った高速バスの「海の駅九十九里への乗り入れ」について、バス事業者と町、観光関係者が協力しながら可能性を検討します。
- 観光客向けの店舗などの立地が進んでいる「九十九里ビーチライン」（産業道路）の路線バスの運行や他の手段による移動サービスの提供について、夏季におけるニーズの調査を行うなど、運行事業者等や町、観光関係者が協力しながら可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○ (PRの協力)	●	○ (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 5-2

観光と公共交通が連携した企画等

九十九里浜など本町の魅力的な観光、レジャーのスポットへ、なるべく多くの人々が公共交通を使って来訪し、地域の周遊や町内の回遊をしていただけるよう促すため、公共交通と観光が連携した企画などに取り組みます。

取り組みの内容

- 本町の観光資源を活かした魅力ある企画きっぷやツアー、イベントなどについて、町の呼びかけにより、公共交通と観光などの関係者が定期的に意見交換を行い、可能性を検討します。有望なアイデアがある場合には試行などを行います。
- 町の呼びかけにより、バス、タクシー事業者や観光関係者と意見交換し、例えば、周遊バ

ス、観光タクシーや、小型モビリティ（ＥＶカーシェア、Ｅバイク、電動キックボードのレンタルなど）など、周遊や回遊に便利な移動手段の導入の可能性について、ニーズの調査等も行いながら検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	● (意見交換への参加)	● (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
5-3

その他、来訪者の利便性の充実

本町へ、公共交通を利用して来訪した人の利便性を向上するとともに、リピーターを確保するため、バス、タクシーなどの利用環境の充実、民間のサービスや新たな技術の活用に取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 民間による検索サイトやアプリなどで経路を検索できるようにするため、バスの運行情報の「オープンデータ化」について検討し順次取り組むとともに、定期的に更新します。
- 高校生だけでなく観光客からも要望の多いバス、タクシーの「キャッシュレス化」(ICカード、モバイル回数券など)について、バス、タクシーの事業者が継続的に検討するとともに、町も支援の方策を検討します。
- その他、民間のアイデアによる多様なスマホアプリや、MaaS、自動運転など将来的な導入の可能性がある技術の動向について、町や運行事業者が継続的に情報収集を行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	●		

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

3. 将来の公共交通ネットワーク

本町の公共交通は、現状のネットワークの構成を活かし、地域の実情に応じた運行方法の見直しや、新たな公共交通サービスの可能性、公共交通以外の送迎サービスとの連携などについて検討しながら、将来まで持続し、町民の日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。また、運行を持続するだけでなく、わかりやすさや待合い環境の充実、町民の意識の醸成を通じた利用促進を図るとともに、観光などとの連携をめざした取り組みを行います。

《将来の公共交通ネットワークのイメージ》



九十九里鐵道（路線バス）	—
《補助対象路線系統》	
九十九里鐵道（九十九里ライナー）	—
ちばフラワーバス（路線バス）	—
小湊鐵道（大網サンライズ九十九里線）	—
《補助対象路線系統》	
九十九里町役場	●
主な観光施設	●

《国の地域公共交通確保維持事業（幹線補助）について》

小湊鐵道の大網サンライズ九十九里線は、鉄道駅（JR 大網駅）に接続するとともに、本町と大網白里市をつなぎ、日常生活における移動を確保するとともに、サンライズ九十九里への観光の移動を確保しています。

九十九里鐵道の片貝循環豊海線は、鉄道駅（JR 東金駅）に接続するとともに、本町と東金市をつなぎ、日常生活における移動を確保するとともに、九十九里浜への観光の移動を確保しています。

いずれの路線も、地域間の幹線として、本町の公共交通ネットワークを構成する上で特に重要な役割を担っています。一方で、事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業（幹線補助）により運行を確保・維持する必要があります。

系統	起点	経由地	終点	運行形態	取組みの主体	補助事業の活用
小湊鐵道 大網サンライズ九十九里線	大網駅	白里海岸	サンライズ九十九里	路線定期運行	小湊鐵道 (運行主体) 九十九里町 大網白里市	幹線補助
九十九里鐵道 片貝循環 豊海線	東金駅西口	家徳・幸田 家徳・サンピア サンピア・幸田	東金駅西口		九十九里鐵道 (運行主体) 九十九里町 東金市	

《本町の九十九里町路線バス海岸線運行事業について》

ちばフラワーバスの海岸線は、鉄道駅（JR 成東駅）に接続するとともに、本町と山武市をつなぎ、本町民の日常生活における移動を確保するとともに、九十九里浜への観光の移動を確保し、地域間の幹線として、本町の公共交通ネットワークを構成する上で特に重要な役割を担っています。一方で、事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しいため、本町が、乗り合いバス運行に係る経費の一部について、事業者に対する補助を行います。

系統	対象区間	運行形態	団体名	対象キロ程	運行主体
ちばフラワーバス 海岸線	成東駅～運沼～成東海岸、 向渡入口～成東駅	路線定期運行	山武市	23.7km (按分率 75%)	ちばフラワーバス
	成東海岸～作田～向渡入口		九十九里町	7.9km (按分率 25%)	